1．科目名（単位数）	薬理学概説（薬物乱用防止を含む）　（2 単位）	3．科目番号	EDHE2319 PSMP2305
2．授業担当教員	飯島　久香		
4．授業形態	講義、ディスカッション、ならびに課題発表	5．開講学期	秋期
6．履修条件・他科目との関係			
7．講義概要	近年、医学の発展に伴って、多くの新しい医薬品が開発されてきた。それらの薬の効果や副作用は、人によって異なることも明らかになってきた。この授業では、 ●薬の有効性と毒性の発現の関係、薬の吸収・分布・代謝・排泄の作用機構等について理解する。 ●薬物乱用問題は社会秩序の根幹に関わる重大な問題である。アルコール、ニコチン、カフェインを含む依存性薬物（覚せい剤・コカイン、麻薬性鎮痛薬、有機溶剤、鎮静催眠薬、大麻、幻覚薬、危険ドラッグなど）の特徴、および薬物乱用に起因する医学的・社会的弊害について学ぶ。 ●薬物の誤用、悪用の問題、サプリメントの有効性の真偽について学ぶ。		
8．学習目標	以下について学び、理解を深め、説明できるようになることを学習目標とする。 1．薬の有効性と毒性（副作用）の発現の関係を学ぶ。 2．薬の吸収・分布・代謝・排泄の作用機序について学ぶ。 3．薬の管理、関連法規について学ぶ。 4．代表的な疾病と治療薬について学ぶ。 5．薬物乱用、悪用、誤用の防止について考え、理解を深める。 6．サプリメントの使用の是非について考え、理解を深める。		
9．アサイメント（宿題）及びレポート課題	1．薬物関連の最新情報（効果、副作用、新薬情報など）を集め、レポートを提出、提出時期は授業のなかで発表。 2．授業ごとにまとめのレポートを提出する（用紙は授業の開始前に配布）		
10．教科書・参考書・教材	【教科書】吉岡充弘・泉剛（著）『薬理学：疾病のなりたちと回復の促進［3］』医学書院。 【参考書】栗原久（著）『No No Drugs! 心と身体と薬物乱用』東京法令出版。 栗原久（監修）『Stop Drug! －薬物乱用を防止するために－』東京法令出版。 東京福祉大学（編）『教職科目要説（中等教育編）』ミネルヴァ書房。		
11．成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1．用量－効果相関を基に、人体と化学物質（薬物）との相互関連について理解しているか。 2．学校現場、家庭で使用している医薬品の作用について理解しているか。 3．薬物乱用の概念を理解し、乱用防止策のビジョンを持てるか。 ○評定の方法 1．授業への積極的参加（授業態度、発言）　30% 2．課題レポート・発表　30% 3．期末試験　40%		
12．受講生へのメッセージ	1．一方的な講義でなく、随所で発言を求め、ディスカッションをたくさん行います。 2．レポートは、簡潔かつ要点を掘り下げたものを求めます。 3．解りやすい口頭発表の仕方を覚えてください。 4．疑問点は後に残さず、講義時間内および直後に質問してください（研究室への来訪は大歓迎）。 5．予習・復習を十分行ってください。 6．関連図書をたくさん読んでください。 7．マスメディアの医療・健康関連情報を随時紹介しますが、皆さんも関心を持ってチェックしてください。 8．授業時間の開始は厳守します。 9．授業時間中に携帯電話・スマートフォンを使用することは禁止します。		
13．オフィスアワー	別途連絡する		

14．授業展開及び授業内容

講義日程	授業内容	学習課題	
第１回	イントロダクション： 薬の効果発現（用量－効果相関、吸収・分布・代謝・排泄、効果器と受容体）	事前学習	「薬理学概説」用の学習ノートを準備し、授業に臨む意識を高める。pp.4-61 を読み、薬の効果発現についての概略を調べておく。注：新教科書準拠
		事後学習	薬物の使用目的、効果発現の基本原則をまとめる。
第２回	「抗感染症薬（抗菌薬、抗ウイルス薬、抗真菌薬）」	事前学習	pp.66-93 を読み、病原体の種類を理解する。
		事後学習	抗生物質、合成抗菌薬、抗ウイルス薬、抗真菌薬の作用機序・範囲と副作用についてまとめる。
第３回	「消毒薬」	事前学習	pp.298-302 を読み、消毒薬の種類を把握しておく。
		事後学習	各種病原体に有効な消毒薬についてまとめる。
第４回	「呼吸器系に作用する薬物（気管支拡張薬、鎮咳薬、呼吸促進薬）」	事前学習	pp.230-234 を読み、喘息の原因と症状を理解する。
		事後学習	呼吸器系疾患、特に気管支喘息に有効な薬剤と、その副作用についてまとめる。
第５回	「麻薬性鎮痛薬（解熱鎮痛薬、片頭痛治療薬等）」	事前学習	pp.181-187 を読み、痛みの発現機序について理解する。
		事後学習	痛みの緩和に有効な薬剤の作用機序をまとめる。
第６回	「抗ヒスタミン薬と抗炎症薬（ステロイド性抗炎症薬、非ステロイド性抗炎症薬）」	事前学習	pp.122-133 を読み、アレルギー反応の発現機序を理解する。
		事後学習	アレルギー反応の予防・緩和薬の作用機序、副作用を

			まとめる。
第７回	保健室にある薬（薬理作用と使用上の注意点）	事前学習	第１回～第６回の授業内容を復習する。
		事後学習	保健室にある代表的な薬剤と、その使用目的について、またディスカッションした内容についてまとめる。まとめをレポート提出する。
第８回	薬物依存・乱用（興奮系薬物・抑制系薬物・幻覚系薬物、危険ドラッグ） 【参考書】『No No Drugs! 心と身体と薬物乱用』使用。	事前学習	【参考書】『No No Drugs! 心と身体と薬物乱用』pp.69-93 を調べておく。
		事後学習	薬物乱用の人体・社会に及ぼす悪影響について、自分の考えを含めてまとめたレポートを提出する。
第９回	「飲酒（アルコールパッチテストの実習あり）」	事前学習	【参考書】pp.100-108 を読み、お酒の中のアルコール量を把握しておく。
		事後学習	脳機能に及ぼすアルコールの影響から、未成年者の飲酒の問題、成人に対する功罪をまとめる。
第１０回	「喫煙（ニコチン)」	事前学習	【参考書】pp.109-114 を読み、タバコ中やタバコ煙中の成分を把握しておく。
		事後学習	喫煙の急性・慢性の影響についてまとめる。
第１１回	薬物乱用防止教育の実践	事前学習	薬物乱用防止教材の使用法をマスターする。
		事後学習	小学生・中学生を対象とした、薬物乱用防止教育の実践企画を作成する。
第１２回	「喫茶（カフェイン・チョコレート)」	事前学習	【参考書】pp.115-119 を読んで、茶・コーヒー中の成分を把握しておく。
		事後学習	喫茶の功罪、特に幼児や妊婦における影響についてまとめる。
第１３回	「急性中毒に対する薬物（中毒と解毒処置)」	事前学習	教科書 pp.282-286 を読んで、中毒とはどういうことか理解する。
		事後学習	中毒に対する緊急処置（治療薬を含む）についてまとめる。
第１４回	「漢方医学の基礎知識（サプリメント)」	事前学習	教科書 pp.290-296 を読んで、病態（証）と漢方薬の処方を理解する。
		事後学習	漢方薬を含めて、サプリメントの有効性の真偽を考察する。
第１５回	まとめと総合討論	事前学習	事前提示された課題について考察し、まとめる。
		事後学習	課題について発表し、ディスカッションした内容についてまとめ、レポート提出する（期末試験に替える)。
期末試験			